

## 教育関係共同利用航海 公募要項

### 1. 令和9年度に実施する教育関係共同利用航海のうち共同利用単独航海

- (1) 申込資格・・・附属練習船を利用し、単位認定を伴う実習の実施を目的とした国立大学法人又は公立・私立大学等に所属している機関。
- (2) 申込様式・・・附属練習船勢水丸教育関係共同利用申請書【共同利用単独航海】（別紙様式1）  
※必要事項を記入後、次ページ「申込先」事務室へ郵送ください。
- (3) 申込期限・・・令和8年10月26日（月）

### 2. 令和8年度に実施する教育関係共同利用航海のうち公開実習航海（混乗）

No.	日程 (主な指導教員)	実習名等	概要	特別聴講学生 応募期限
1	R8.4.7～4.10 (石川教授)	生物海洋学実習 (海洋観測実習航海)	本実習では、洋上での海洋観測および植物プランクトンの採集を通して、観測機器の扱い方や海洋観測で得られたデータならびにプランクトン標本の処理・解析の方法についての基本を習得するとともに、植物プランクトンが海洋の物理・化学的要因と密接に関係していることを学ぶ。実習海域としては伊勢湾や遠州灘・熊野灘を予定している。	R8.3.16
2	R8.4.14～4.17 (宮崎准教授)	海洋生物生理学実習 (海洋生物生理学実習航海)	船上で海洋生物を採集し、諸形質の計測や解剖、試薬への固定・保存を行い、生物試料を組織、生理、遺伝子実験に供するための処理や保存方法を修得します。また、CTDによる水深、塩分、水温などの海洋環境観測を実施し、海洋生物の生息環境との関係を理解できるようになります。	R8.3.16
3	R8.5.26～5.28 (森川准教授)	漁業生産学実習 (漁業生産学実習航海)	本国で行われている主要漁業について、漁具の種類や構造、操業と漁獲生物に関する知識や技術を学びます。具体的には網漁業についてはひき網、釣漁業は延縄やいか釣について、漁具の各素材と構造、漁具の投入から収容までの操業過程、さらには漁場の物理環境調査手法や漁獲生物の種同定や生態などについて学びます。ただし実施内容は天候等の事情により変更する場合があります。	R8.4.27
4	R8.6.1～6.5 (万田准教授)	大気海洋循環学実習 (大気海洋循環学実習航海)	伊勢湾・熊野灘・黒潮上において海洋観測を行います。取得したデータから、内湾と外洋の海洋環境の違いや、大気と海洋がどのように影響しあっているのかを学びます。	R8.4.27
5	R8.9.8～9.18 (練習船教員)	総合航海実習 (底生生物調査実習航海)	洋上での試験操業、海洋観測作業、採集された生物からのデータ収集、データに基づく解析など実施し、海洋生物資源の調査手法を実践的に身につけます。試験操業はLCネットを用いて実施する予定です。なお本実習は10泊11日の航海により実施します。悪天候等の理由により日程が短縮する場合や、陸上実習を課す場合もあります。	R8.6.29
6	R8.10.6～10.10 (木村教授)	海洋生態学実習 (海洋生態学実習航海)	伊勢湾内や熊野灘海域において、ベントスネットやドレッジなどの底曳網、底筒、マルチネットを用いて浅海から深海のベントスやプランクトンを採集し、実際の生物を観察する。採集した生物については同定・計測を行い、プランクトン、ベントス標本の処理・解析の方法についての基本を習得する。調査で得られたデータから海洋生態系や生物多様性に関する基礎的知識を理解し、環境と生物との関係を考察することを目的とする。	R8.8.28
7	R8.10.14～10.15 (船坂准教授)	海洋哺乳動物学実習 (海生哺乳動物学実習航海)	伊勢湾・三河湾に生息するスナメリを対象とした目視調査を実施します。実際の洋上でのフィールドワークを通して、野生鯨類の生態や調査手法（目視調査・データ解析など）を実践的に習得することを目的とします。実習では、班ごとの目視調査の実施、鯨類の生態や調査法に関する講義、得られたデータの解析・考察、およびレポート作成を行います。	R8.8.28

No.	日 程 (主な指導教員)	実 習 名 等	概 要	特別聴講学生 応募期限
8	R8.10.20～21 洋上 1 日 陸上 1 日 (支援室教員)	紀伊黒潮流域圏航海実習 I (海洋食文化実習航海 ～尾鷲～【予定】)	近年、日本の魚食文化が世界で注目される一方で、日本では魚離れが起きているといわれます。このような中で、魚食文化の正しい理解を次世代の担い手である学生に伝えていくことは、水産学に携わる者の重要な使命であると我々は考えます。 練習船では、教育関係共同利用拠点の認定に伴い、古来より日本人の食生活を豊かにしてきた地域の食文化に関する実習を取り入れた海洋・食文化実習航海を提供します。そして、私たちが海洋から受けている恩恵(生態系サービス)を実感・体験します。	R8.9.25
9	R8.10.22～23 洋上 1 日 陸上 1 日 (支援室教員)	紀伊黒潮流域圏航海実習 II (海洋食文化実習航海 ～伊勢湾～【予定】)		R8.9.25
10	R8.10.27～10.30 (山田准教授)	海洋科学実習 (海洋調査実習航海)	主に熊野灘を対象海域とし、CTD を用いた海洋観測を行います。CTD によって得られた水温、塩分、水圧等のデータに加えて、航海時に観測、記録した流速データ、気象データ、測深データも用いながら、海洋データの基礎的な解析も行います。	R8.9.25

※複数の日程が掲載してある実習につきましては、ご希望の日程を明記しご応募ください。

- (1) 募集対象 国立大学法人又は公立・私立大学等に所属している機関の学生。
- (2) 受講の基準 本学部教授会が、当該授業科目を履修するに十分な学力があると認めた学生。  
No. 1～7 および 10 については、四年制大学 3 年生以上、No. 8・9 については、四年制大学・短大 2 年生以上であることが必要です。
- (3) 申込書類等 (提出方法：郵送またはメール便等配送記録があるものに限る)
  1. 特別聴講学生入学願 (別紙様式 2)
  2. 履歴書 (要写真添付) (別紙様式 3)
  3. 所属大学学部長または学科長の承諾書 (別紙様式 4)

【乗船(受講)決定後に必要となる書類】\*上記 1-3 と同時提出可

4. 学生教育研究災害傷害保険(若しくは、それに準ずる保険に加入している事)・同付帯賠償責任保険(若しくは、それに準ずる保険に加入している事)への加入を証する書類の写し

### 3. その他

- (1) 乗船(受講)者の決定  
所属大学の担当者に連絡いたしますが、定員等の都合上、ご希望に添えない場合がございますので、予めご了承ください。
- (2) 乗船に係る主な費用 (予定額)
  1. 食事代 (朝食 300 円/1 食・昼食 400 円/1 食・夕食 400 円/1 食)
  2. クリーニング代 650 円/1 航海
- (3) 乗船港までの交通費・下船港からの交通費は自己負担。
- (4) 公開実習航海 (混乗) No. 8、No. 9 紀伊黒潮流域圏航海実習 (海洋食文化実習航海) に係る費用  
両コースとも 3,500 円程度の費用がかかります。参考に過去の実績より算出した予定額は以下の通りです。
  1. 尾鷲コースに係る実習費用 (予定額)  
船上朝食 (1 食) 300 円・船上昼食 (1 食) 400 円・船上夕食 (1 食) 400 円・クリーニング代 650 円  
2 日目昼食 1,800 円  
合計：3,550 円
  2. 伊勢湾コースに係る実習費用 (予定額)  
船上朝食 (1 食) 300 円・船上昼食 (1 食) 400 円・船上夕食 (1 食) 400 円・クリーニング代 650 円  
2 日目昼食 1,870 円  
合計：3,620 円

#### ■申込先・問合せ先■

〒514-2221 三重県津市高野尾町 2072-2

国立大学法人三重大学 大学院生物資源学研究所

附属教育研究施設事務室 (練習船担当)

Tel : 059-230-1143 Fax : 059-230-1463 Mail : ship2012@bio.mie-u.ac.jp